

全国調査 川崎・横浜は増加

調査の方法にも問題あり。夜の調査を行ったのは川崎市だけ。

移動する人、さまよう人…野宿者は「見えにくく」なっている

今年1月に厚生労働省の全国調査が行われ、4月に神奈川県が全国調査の結果を発表した。県内の公園や河川敷などで生活するホームレスは24市町で確認され、合計2,020人だった。4年前より92人増えたことになる。増えたのは横浜市や川崎市など10の市と町、減ったのは厚木市や藤沢市など15の市と町だった。

・横浜市 661人 191人増

・川崎市 848人 19人増

・厚木市 74人 28人減

・藤沢市 41人 22人減

神奈川県では、対策が他都市より充実しているように思える横浜・川崎で増加している。しかしこの調査には大

きな問題点がある。

- 1) 調査基準日は1月17日。この日は大雨だった。雨を避けて別の場所にいた人もかなりいる。川崎(水パト)は日常の巡回結果を反映したが、他市で当日1日だけしかチェックしていないところもあった。
- 2) 調査時間帯は指定なし。川崎は深夜から明け方まで、ほぼ全ての駅とその周辺を回ったが、他では市町村職員の就業時間内が多く、実数をつかんでいない。茅ヶ崎市は道路や河川など92カ所の施設管理者に時間などの設定をせずに依頼し、目視結果だけを上げてもらっていた。

公園の小屋の撤去や好況施設の「寝泊り禁止」により、野宿者の寝る方法

川崎水曜パトロールの会

2007年 5月2日 044-230-0560 (火、水、木、金、日の朝9時～夕方5時)

は4年前と大きく変わっている。

1) 深夜、眠らなかつたり、あちこちに移動する人々

2) 缶集めの途中などに、いくつかの場所で短く仮眠してまた移動する人々

3) 雨の日だけは別の場所に寝るなど、1,2箇所の寝床が決まって、夜になると決まった場所に寝床を作る人々

4) 公園や河川で小屋やテントで暮らす人々

このうち、1)と2)が増え、3)と、特に4)が減っている。そして、より深刻な問題を抱えているのは1) 2) 3) 4)の順に多い(もちろん人にもよるが)。

さまよう人々は、誰かと話す機会が少なく、問題解決の方法も情報も知らないことが多い。行政から見れば「効率

の悪い」1)2)3)を中心に、水パトはパトロールを行っている。ところが国や県は4)と3)しか眼中にない。野宿者の自立や生存権よりも、「市民から見えなくなればいい」という考えなのか？

川崎にたどりつく野宿者

ここ数年のパトロールで、東京や横浜から川崎に来た野宿者に多く出会う。そのかなり(多分半分以上)の人々が、短い間に、また他の場所・他の都市に行くので、定着している人は出会うほどには多くはない。今年1月の厚生労働省の調査でも、川崎市と横浜市以外の神奈川県ではほとんど把握されていないと思う。

川崎の様々な活動、仲間の面倒を見てきた野宿者は、川崎から動かない者たちだった。生死の境目をくぐって

	日付	曜日	集合場所	集合時間	場所
掃除	5月6日	日	貝塚ホール	9:00	国道15号線 郵便局～稲毛神社
	5月9日	水		9:00	国道15号線 元木町交差点～ハローブリッジ
	5月13日	日		9:00	富士見公園(競輪場側)
	5月16日	水		9:00	国道15号線 区役所前～市電通り

きた、その頃の仲間の多くは、この世にいない。

1) 川崎で生まれたり、川崎で育った人。「生まれも育ちも川崎」という人も10%ほどいる。

2) 動かない人。川崎で長く働いてきたり、自分の建てた物や、思い出、愛着がある。「川崎はね、故郷の匂いがする」と言う。

3) 自分が動けない程の弱者。

4) 弱い人の面倒を見ている人、気になっている人。

こういう人は他者も場所も大事にする。そうでない人でも、他者の温かさに触れて、今度は自分が誰かの役に立ちたいと願う仲間もいる。

しかし、自分に「損か得か」だけで動いて、人の迷惑を考えない、寝床を片付けない、弱い仲間を放置する個人主義的流入者もいる。その結果は痛々しいほど出ている。体育館越年宿泊の廃止、パン券の廃止、汚す・片付けないなどで寝床がなくなっていく……。

共に活動を担った野宿者、水パト、川崎市職員(の一部)、地域住民(の一部)が大切にしていたことを踏みにじ

る流入は問題だ。もっとも、「損得だけを求める」人は野宿者に限らない。市役所にも、民間の会社にも、町内会にもたくさんいるだろう。

「自分は弱い」「世の中の役に立っていない」と思う気持ち、どっちが損か得かばかり考えること、何かを決めることをためらう不安、他者を大切にしたい気持ち……こうした心の揺れを往復している野宿者・私たち。一步で冷たい世の中にどっぷりと浸かって自分も冷たくなってしまっており、もう一方では「そんな自分は嫌だ」と、「そんな世の中は嫌だ」と、抵抗している。

どう生きるかは、それぞれ自分の選択だ。自分の損得だけを考えず、弱い人を気遣い、一緒に何かを目指す“仲間になる”ことに生きる意味があると思わないか。

与えられる人間から、自分で何かをつくる人間(集団)に変わっていくこと。野宿者の自分と他者(野宿者同士も地域住民との関係も)尊重すること。自分たちで決定権と責任を持つこと。その希求にこそ価値がある。問われているのは、1人1人の“あなた”だ。

パトロールでの出会い

*パトロールで聞いた話から時々紹介します。

「で倒れている人がいるからきて」現場へ。行くと、通行中の人4,5人が囲んでいた。意識はっきり、顔に外傷、出血少々。囲んでいる人たちがいい人で、本人に雨が当たらないように傘をさしたり、「大丈夫?」「かわいそうね」「動かさない方がいい」と丁寧。本人71歳。病院に行って受診したところ、「保険証をもってきて」と言われたので届けに行く途中で転んだ様子。サンダル履きなので、突風に煽られて水溜りで滑った? 救急車5分後到着。救急隊「ご苦労様でした。あとは私たちでやります」通行人「はい、お願いします」。結局、水パト添乗せず。通行人たちは「お疲れさま」と言って、それぞれ自転車で別々の方向に帰っていった。(川崎駅周辺)

59歳、暴走族が公園で騒いでいるので寝れない(朝が早いのに)。明日は缶拾いに遠くまで行く。(富士見)

鍛冶屋40年。造船、原子力で仕事してきた。アルコール依存症。手を治して仕事をするために、この4年間、断酒中。(臨海部)

35歳。ごみの中を探している。「コンビニの弁当は取れない。俺にはくれないと思う」という。もともと川崎市にいた。先週あたりからこの辺に。父親は建築業。2人で7万6千円でアパートで暮らしていた。高校を出て正規社員で就職 工場のバイト 1年後に減産 工場閉鎖。「派遣は厳しい」。父も派遣で、ほぼ同時に職場がなくなった。昨年10月、家賃滞納でアパートを出された。ベンチで昼間寝て夜にごみを探す。 でトイレに長くいて警備員に「出入禁止」と言われた。時々××で仮眠。ここ数日1,2時間しか寝ていない。今、夜は動いている。昼は のベンチ。前に、 で寝ていたら、かばんを噴水の中に投げられていた。(中原区)